スーパーマーケット販売統計調査資料

2018 年 8 月実績 速報版（パネル 270）
7 月実績 確報版（パネル 270）

（2018 年 9 月 21 日公表）

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更（275 社→270 社）

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版：速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業（DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等）

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

2018年9月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2018年8月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	94,325,827	100.0%	102.1%	101.0%
食品合計	85,424,928	90.6%	102.7%	101.5%
生鮮３部門合計	31,511,531	33.4%	103.3%	101.9%
青果	13,616,267	14.4%	108.0%	106.7%
水産	7,751,448	8.2%	99.4%	98.2%
畜産	10,143,816	10.8%	100.4%	99.0%
惣菜	10,338,959	11.0%	103.9%	102.3%
日配	18,424,014	19.5%	103.0%	102.0%
一般食品	25,150,425	26.7%	101.4%	100.2%
非食品	6,486,269	6.9%	97.4%	96.5%
その他	2,414,676	2.6%	96.5%	97.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	13,376,616	43	101.4%	99.7%
関東地方	33,910,746	73	102.9%	101.7%
中部地方	11,854,493	53	101.5%	100.4%
近畿地方	20,174,597	44	101.6%	101.1%
中国・四国地方	9,665,450	34	102.5%	100.0%
九州・沖縄地方	5,343,926	23	100.8%	101.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	709,369	45	96.0%	97.2%
4～10店舗	4,098,528	72	101.4%	100.5%
11～25店舗	10,510,146	63	100.0%	100.0%
26～50店舗	17,427,280	46	101.5%	99.8%
51店舗以上	61,580,505	44	102.6%	101.4%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	91,865,304
総店舗数（店舗）	7,942	店舗平均月商（万円）	11,877
総売場面積（㎡）	13,129,914	売場１㎡あたり売上高（万円）	7.2

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2018年9月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2018年7月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	91,739,069	100.0%	102.0%	100.9%
食品合計	82,684,637	90.1%	102.6%	101.3%
生鮮３部門合計	30,279,236	33.0%	102.9%	101.5%
青果	12,284,588	13.4%	104.9%	103.6%
水産	7,965,510	8.7%	101.6%	100.3%
畜産	10,029,138	10.9%	101.6%	100.1%
惣菜	9,380,107	10.2%	102.1%	100.4%
日配	18,254,911	19.9%	102.9%	101.7%
一般食品	24,770,383	27.0%	102.1%	101.0%
非食品	6,521,877	7.1%	98.2%	97.7%
その他	2,532,599	2.8%	97.3%	98.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,706,856	43	100.8%	99.3%
関東地方	34,112,992	73	102.6%	101.4%
中部地方	11,111,639	53	101.2%	99.8%
近畿地方	19,388,835	44	102.3%	101.9%
中国・四国地方	9,311,499	34	103.3%	100.9%
九州・沖縄地方	5,107,248	23	99.6%	99.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	660,056	45	96.7%	97.7%
4～10店舗	3,904,942	72	101.1%	100.8%
11～25店舗	10,214,632	63	100.1%	100.1%
26～50店舗	16,541,628	46	100.9%	99.5%
51店舗以上	60,417,810	44	102.7%	101.4%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	89,480,042
総店舗数（店舗）	7,927	店舗平均月商（万円）	11,573
総売場面積（㎡）	13,106,388	売場１㎡あたり売上高（万円）	7.0

※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2018年8月エリア別気候状況

1.　8月気温の特徴：東・西日本は、気温がかなり高かった。□

上旬：東・西日本ではかなり高く、沖縄・奄美は高かった。北日本は平年並だった。

中旬：北・東日本と沖縄・奄美では低く、西日本は平年並だった。

下旬：東・西日本ではかなり高かった一方、北日本と沖縄・奄美は平年並だった。

2017年8月との比較：東日本を中心に前年より高い気温となった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2018年8月			2017年8月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	-0.7	-1.8	-0.4	-1.0	-2.1	0.2	0.3	0.3	-0.6
東北地方	-0.1	-1.0	1.4	-0.8	-2.0	-0.2	0.7	1.0	1.6
関東甲信地方	1.8	-0.2	2.3	0.2	-1.2	1.0	1.6	1.0	1.3
北陸地方	0.9	-0.8	2.2	0.7	-0.9	0.3	0.2	0.1	1.9
東海地方	2.6	-0.1	2.0	0.6	-0.4	1.5	2.0	0.3	0.5
近畿地方	1.3	0.0	2.0	0.8	-0.2	1.1	0.5	0.2	0.9
中国地方	1.4	0.2	2.7	1.2	-0.7	1.1	0.2	0.9	1.6
四国地方	1.5	-0.2	1.7	1.2	0.7	1.4	0.3	-0.9	0.3
九州北部	1.7	1.2	2.4	1.8	0.2	1.2	-0.1	1.0	1.2
九州南部・奄美地方	0.9	0.2	0.7	1.5	1.0	1.4	-0.6	-0.8	-0.7

平年差
+2℃以上　−2℃以上
+1℃以上　−1℃以上

前年差
+2℃以上　−2℃以上
+1℃以上　−1℃以上

2.　8月日照時間の特徴：西日本日本海側は、降水量がかなり少なく日照時間がかなり多かった。

上旬：西日本日本海側ではかなり多く、北日本日本海側と東・西日本太平洋側は多かった。□

中旬：東・西日本日本海側では多かった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美は少なかった。

下旬：北日本日本海側ではかなり少なく、北日本太平洋側は少なかった。一方、東日本太平洋側と西日本は多かった。

2017年8月との比較：全国的に上旬から中旬にかけて前年より多い日照時間となった

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2018年8月			2017年8月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	137	65	51	88	66	106	49	-1	-55
東北地方	91	126	72	82	32	76	9	94	-4
関東甲信地方	117	120	122	64	38	88	53	82	34
北陸地方	101	114	85	107	58	91	-6	56	-6
東海地方	138	101	119	78	60	111	60	41	8
近畿地方	119	113	119	92	89	111	27	24	8
中国地方	136	114	119	102	83	120	34	31	-1
四国地方	133	92	114	85	117	116	48	-25	-2
九州北部	147	128	119	97	115	129	50	13	-10
九州南部・奄美地方	124	87	101	76	132	121	48	-45	-20

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
+50%以上　−50%以下
+25～49%　−25～-49%

3.　8月降水量の特徴：北・東日本日本海側と沖縄・奄美は、降水量がかなり多かった。

上旬：西日本日本海側ではかなり少なく、西日本太平洋側は少なかった。一方、北日本は多かった。

中旬：北日本と沖縄・奄美ではかなり多く、東日本日本海側は多かった。一方、西日本日本海側は少なかった。

下旬：東日本日本海側ではかなり多く、北日本日本海側と西日本太平洋側では多かった。□

2017年8月との比較：東日本ではかなり多く、西日本では上旬から中旬はかなり少なく下旬はかなり多い降水量となった。

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2018年8月			2017年8月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	69	268	121	18	85	92	51	183	29
東北地方	207	179	146	95	135	117	112	44	29
関東甲信地方	97	54	66	117	164	33	-20	-110	33
北陸地方	59	130	0	274	102	201	-215	28	-201
東海地方	3	100	125	204	110	36	-201	-10	89
近畿地方	6	51	238	290	94	28	-284	-43	210
中国地方	2	0	118	213	158	36	-211	-158	82
四国地方	13	134	109	259	41	40	-246	93	69
九州北部	9	0	39	45	135	60	-36	-135	-21
九州南部・奄美地方	51	93	87	224	31	48	-173	62	39

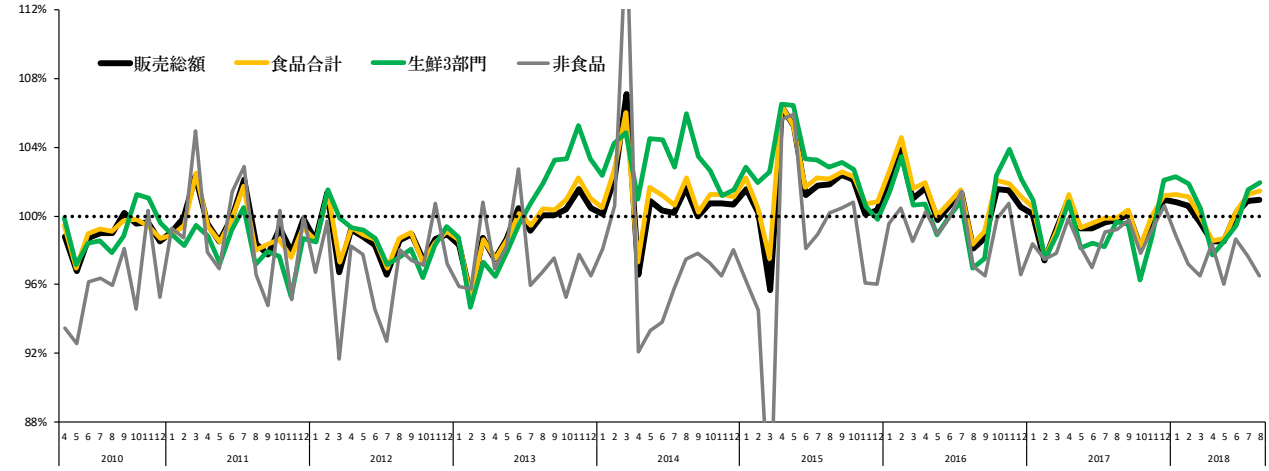
平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
+50%以上　−50%以下
+25～49%　−25～-49%

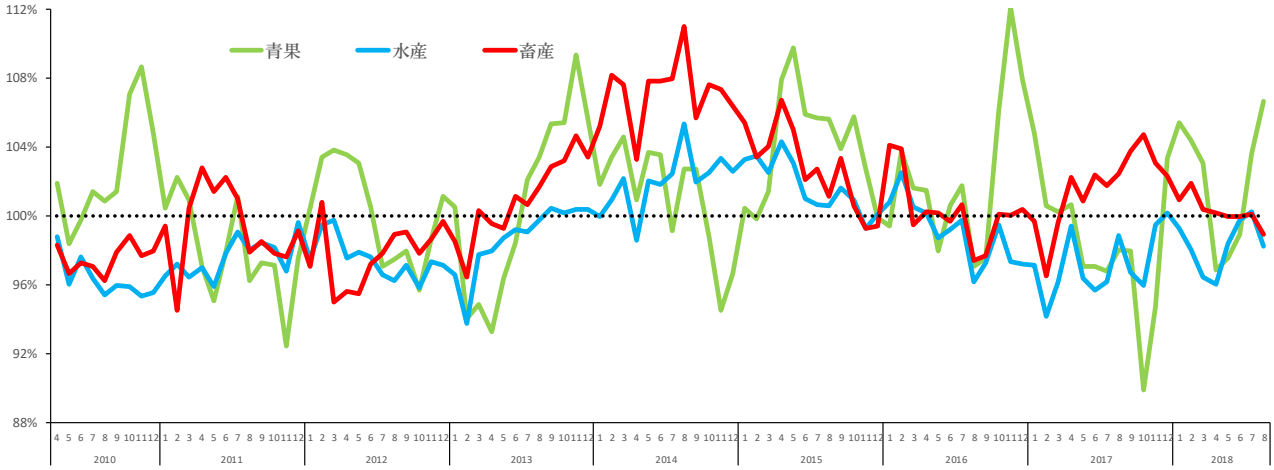
気象庁ホームページ・報道発表資料「8月の気候」参照
平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計（パネル270） 既存店前年同月比推移　2010年4月～

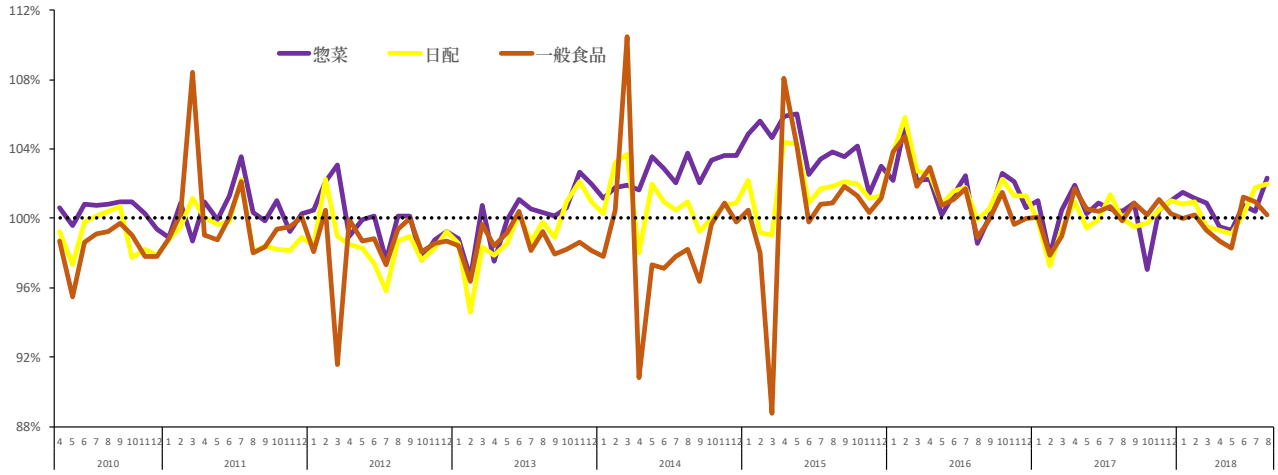
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年7月までは確報版による前年同月比、2018年8月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2018 年 9 月調査結果（8 月実績）
(2018 年 9 月 21 日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの５段階で評価
- 前年同月を 100 とした当月の値を調査　※2014 年 4 月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの５段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで５段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの５段階で評価

景況感 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9 月調査（8 月実績）結果概況

景気判断 DI は現状・見通しともに小幅な悪化

8 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から-1.0 の 46.9、見通し判断は前月から-1.1 の 45.0 となり、どちらもわずかながら前月より悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI が-6.7、収益 DI は-9.4 とどちらも前月からマイナス幅がやや拡大した。猛暑や天候不良による青果相場の高騰が続いており、生鮮仕入原価 DI は+10.6 と 2 桁プラス、客単価 DI は 5.2 とどちらも前月水準を維持したものの、来客数 DI は、猛暑や天候不順の影響も受け、-14.1 と低下し、二桁のマイナス水準での低迷したことが売上を圧迫した。

カテゴリー動向調査では、相場の高騰や果物類の好調により青果 DI が+14.9、猛暑により家庭調理が敬遠されたこともあり惣菜 DI が 0.9 とわずかにプラスとなった。他の DI については猛暑による恩恵もあったが、来客数減が影響しマイナスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、周辺地域景気判断ＤＩを除く DI で現状判断、見通し判断ともに小幅な悪化にとどまっており、前月までの改善トレンドは維持していると考えられる。（周辺地域景気動向 DI 長期傾向参照）

記録的な猛暑となったことで、夏物商材を中心に恩恵もあったが、買い物を控える動きが加わり、来客数の減少というマイナス面がやや上回った結果となった。近年気温だけでなく、集中豪雨発生など気候の変化が大きい。スーパーマーケットは、消費者からこれらの多岐にわたる影響に対する柔軟な対応力が求められることになる。来客数減の反転に向け、今後の取り組みに期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：４６．９（－１．０）	当月：４６．７（－１．２）	当月：４２．５（－０．４）	当月：４７．７（＋０．４）
前月：４７．９	前月：４７．９	前月：４２．９	前月：４７．３

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：４５．０（－１．１）	当月：４６．３（－０．６）	当月：４１．３（－０．５）	当月：４７．６（＋０．５）
前月：４６．１	前月：４６．３	前月：４１．８	前月：４７．１

経営動向調査　**経営状況**

売上高DI	客単価DI	来客数DI	
当月：－６．７（－４．１）	当月：５．２（－１．３）	当月：－１４．１（－２．６）	
前月：－２．６	前月：６．５	前月：－１１．５	

収益DI	販売価格DI	生鮮品仕入原価DI	食品仕入原価DI
当月：－９．４（－５．１）	当月：２．７（－０．１）	当月：１０．６（＋０．１）	当月：２．６（－２．７）
前月：－４．３	前月：２．８	前月：１０．５	前月：５．３

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI
当月：１４．９（＋８．４）	当月：－１３．８（－６．１）	当月：－１０．８（－６．６）
前月：６．５	前月：－７．７	前月：－４．２

惣菜DI	日配DI	一般食品DI	非食品DI
当月：０．９（＋２．５）	当月：－１．２（－３．１）	当月：－６．７（－８．３）	当月：－１４．３（－４．２）
前月：－１．６	前月：１．９	前月：１．６	前月：－１０．１

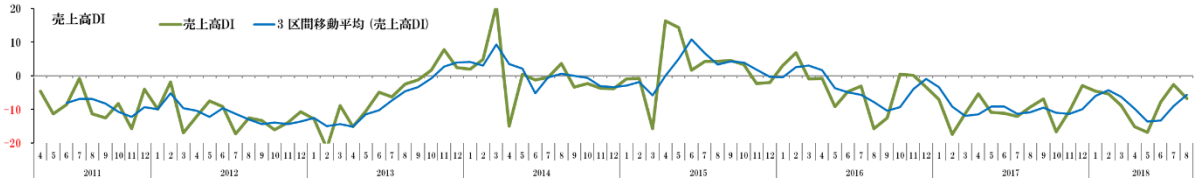
（）内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

9 月調査（8 月実績）結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2011 年 4 月～）

1.　売上高 DI

前月まで 2 か月連続上昇するも当月は小幅に下落

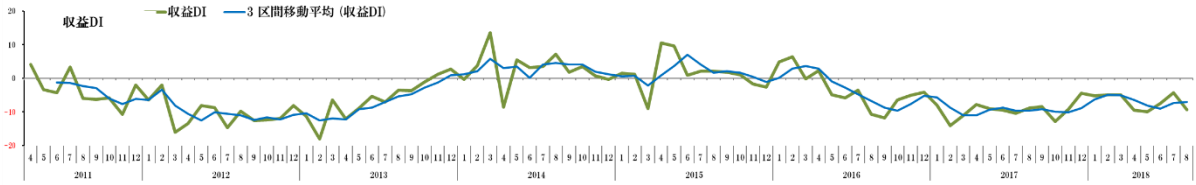
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	7.3	31.6	28.5	29.5	3.1	-2.6
売上高（当月）	**10.2**	**35.8**	**27.3**	**23.9**	**2.8**	**-6.7**



2.　収益 DI

前月まで 2 か月連続上昇するも当月は小幅に下落

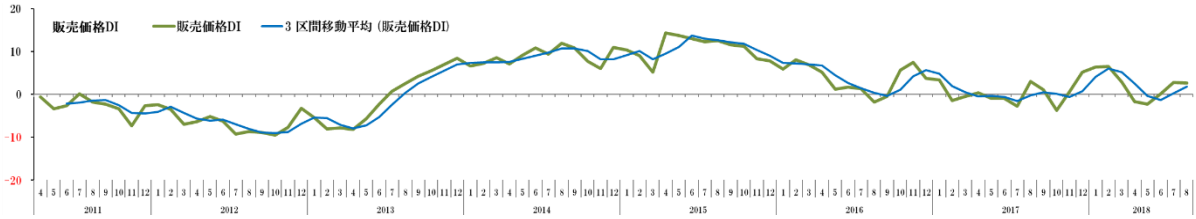
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	7.9	33.0	30.9	25.1	3.1	-4.3
収益（当月）	**12.8**	**35.5**	**29.7**	**20.9**	**1.2**	**-9.4**



3.　販売価格 DI

横ばいでの推移でプラス圏を維持

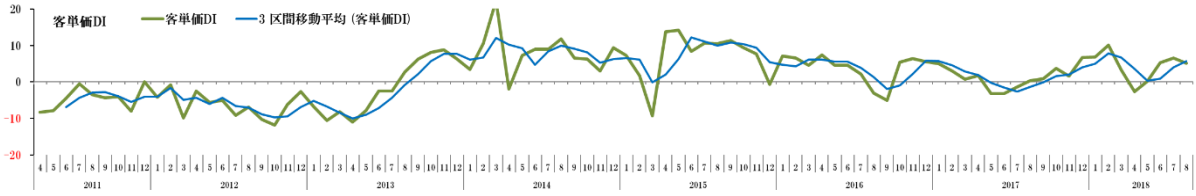
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	15.5	57.5	26.9	0.0	2.8
販売価格（当月）	**0.0**	**11.9**	**65.9**	**21.6**	**0.6**	**2.7**



4.　客単価 DI

横ばいでの推移でプラス圏を維持

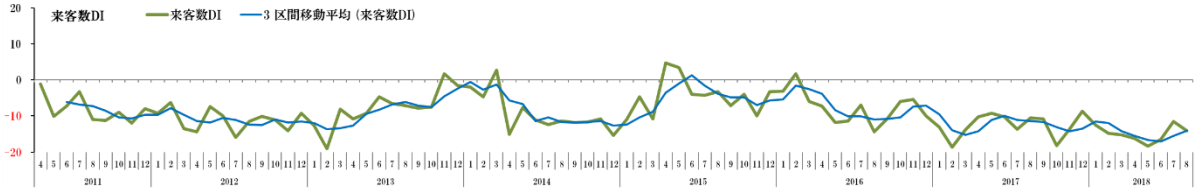
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	15.6	42.2	40.6	1.0	6.5
客単価（当月）	**1.7**	**15.5**	**44.8**	**36.2**	**1.7**	**5.2**



5.　来客数 DI

当月下落し、二桁マイナス水準での推移が続く

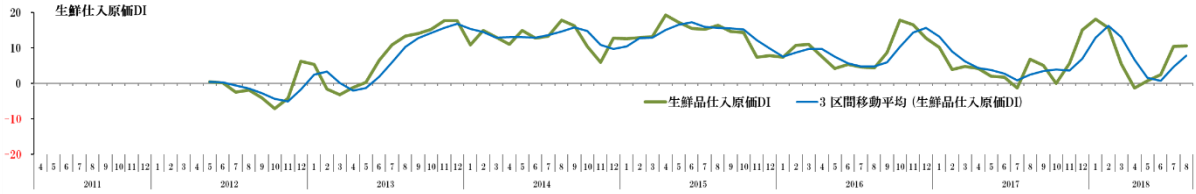
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	6.3	47.9	31.8	13.5	0.5	-11.5
来客数（当月）	**11.4**	**46.9**	**29.1**	**12.0**	**0.6**	**-14.1**



6.　生鮮仕入原価 DI

二桁プラス水準で横ばい

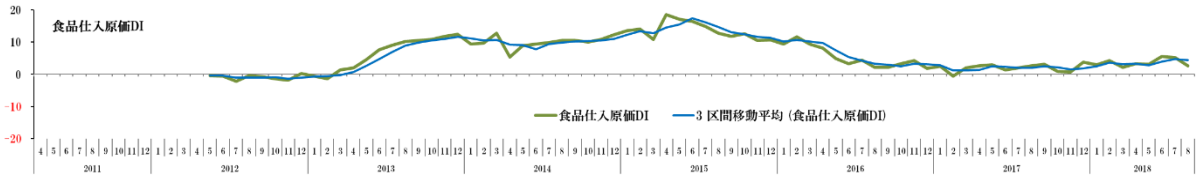
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	0.5	9.6	41.5	44.1	4.3	10.5
生鮮仕入原価（当月）	**1.2**	**8.1**	**41.9**	**44.8**	**4.1**	**10.6**



7.　食品仕入原価 DI

ややプラス幅を縮小するもプラス圏での推移

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	1.1	7.4	62.1	28.4	1.1	5.3
食品仕入原価（当月）	**2.3**	**9.9**	**64.5**	**21.5**	**1.7**	**2.6**

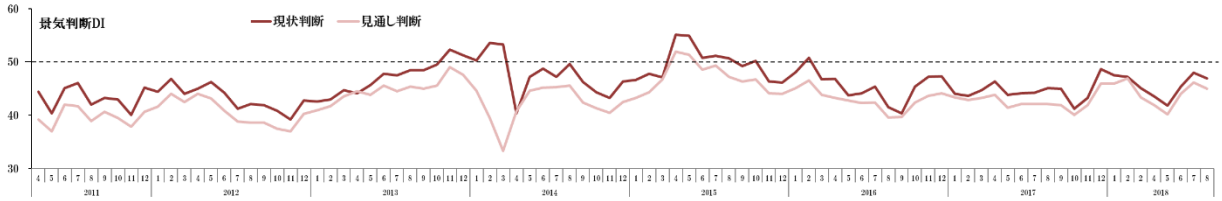


Ⅱ．景況感調査（2011 年 4 月～／周辺地域景気判断のみ 2010 年 4 月～）

1． 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に小幅な悪化

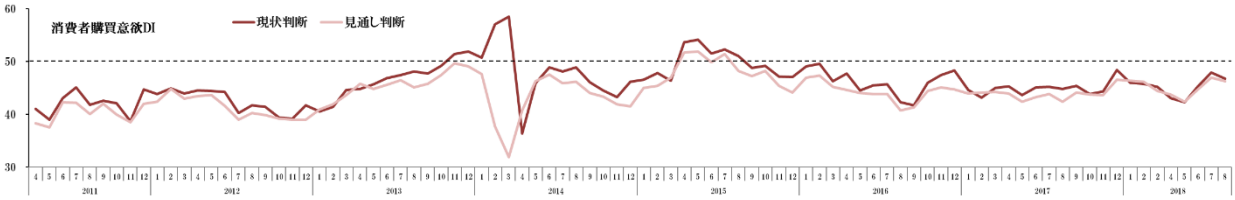
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.0	21.1	63.4	13.9	0.5	47.9
【現状】景気判断（当月）	**1.7**	**19.3**	**69.3**	**9.1**	**0.6**	**46.9**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	1.5	23.2	64.9	9.8	0.5	46.1
【見通し】景気判断（当月）	**1.7**	**24.7**	**66.1**	**6.9**	**0.6**	**45.0**



2． 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に小幅な悪化

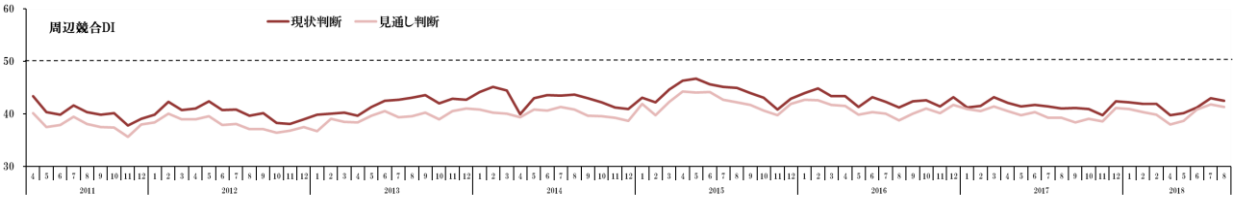
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.0	22.7	63.4	13.4	0.5	47.9
【現状】購買意欲（当月）	**1.1**	**17.0**	**75.6**	**6.3**	**0.0**	**46.7**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.0	20.1	72.7	6.7	0.5	46.9
【見通し】購買意欲（当月）	**0.6**	**18.4**	**76.4**	**4.6**	**0.0**	**46.3**



3． 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅な悪化

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	3.6	24.2	69.6	2.1	0.5	42.9
【現状】競合状況（当月）	**4.0**	**23.9**	**70.5**	**1.7**	**0.0**	**42.5**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	4.1	27.3	66.0	2.6	0.0	41.8
【見通し】競合状況（当月）	**5.7**	**25.7**	**66.3**	**2.3**	**0.0**	**41.3**

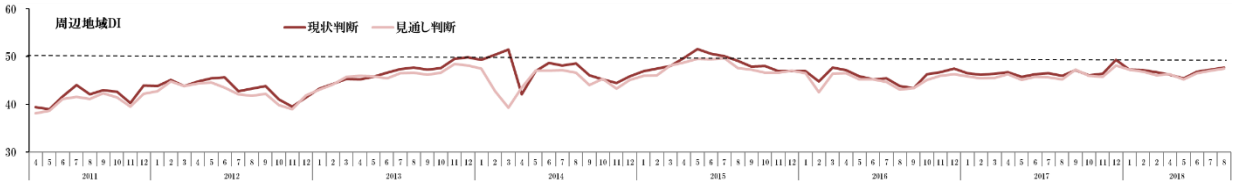


4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

小幅ながら 3 か月連続の改善で高水準を維持

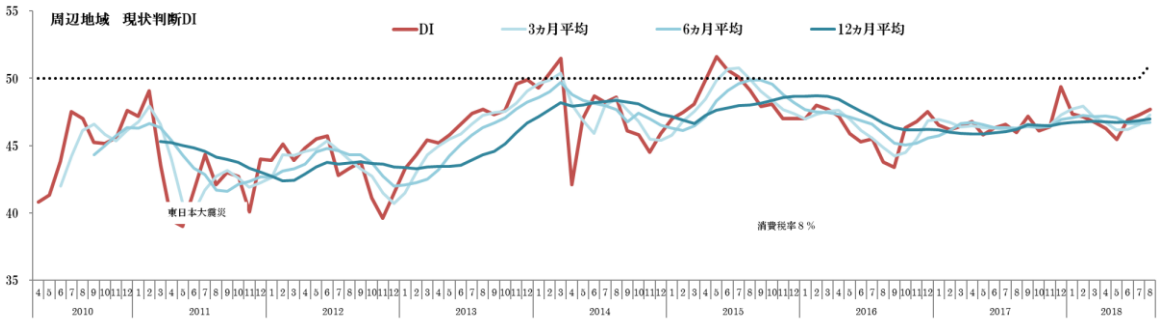
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	0.5	14.1	81.8	3.1	0.5	47.3
【現状】地域景気（当月）	**0.0**	**12.0**	**85.7**	**1.7**	**0.6**	**47.7**

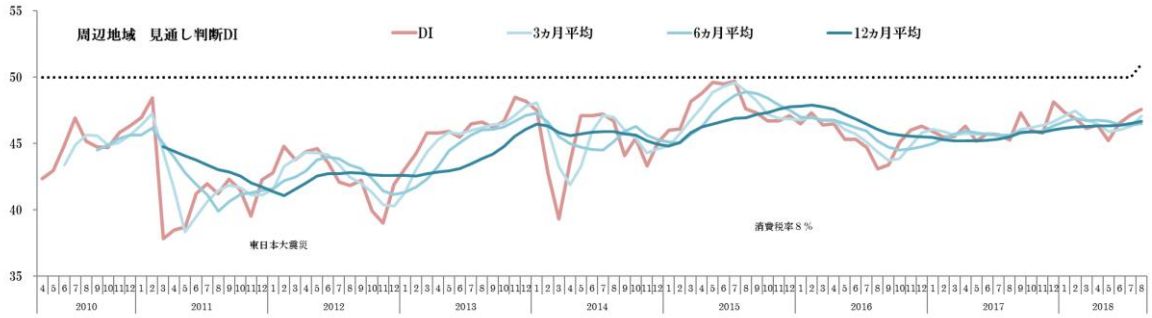
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	0.5	14.1	82.2	2.6	0.5	47.1
【見通し】地域景気（当月）	**0.0**	**12.6**	**85.1**	**1.7**	**0.6**	**47.6**



※長期傾向（2010 年 4 月～）

11 年 3 月の東日本大震災後低迷を続けていた DI は、12 年 11 月から 16 ヵ月にわたり改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015 年 5 月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断 DI は 51.6 にまで達した。しかしこれをピークとし、その後 15 ヵ月にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18 年に入り悪化傾向が続き、5 月には移動線付近を下回る水準まで低下したが、6 月以降は 3 か月連続で改善をみせている。

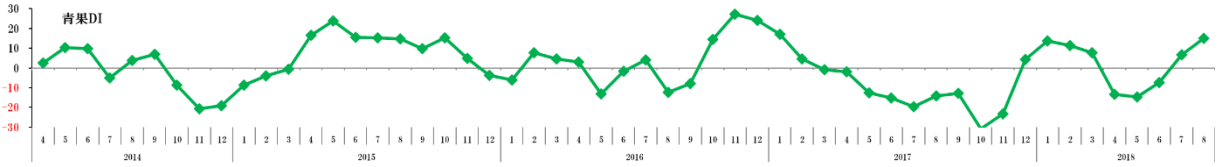




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：14.9（好調）

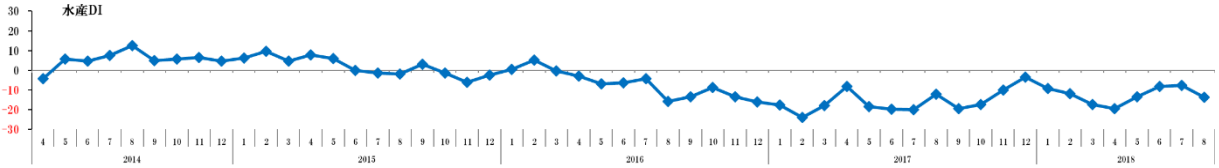
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.3	25.5	21.2	41.8	8.2	6.5
青果（当月）	**3.6**	**14.2**	**17.8**	**47.9**	**16.6**	**14.9**



猛暑や少雨、台風被害などの影響で野菜相場が高騰しており、単価が上昇したことが売上を支えた。気温が高く、レタスやミニトマト、キュウリなどのサラダ商材や、カット野菜、ネギや大根などの薬味用野菜が好調となった。ＴＶで放映されたオクラなどの豆類が大きく売上を伸ばした店舗もみられた。一方で入荷不足や品質の低下を指摘するコメントもみられた。果物類は特に好調となっており、猛暑や出荷時期の早まった影響でによりスイカやブドウ、梨など、輸入果物ではバナナやキウイフルーツが引き続き好調となっている。カットフルーツの動きが引き続きよかった。

2.　水産 DI：-13.8（不調）

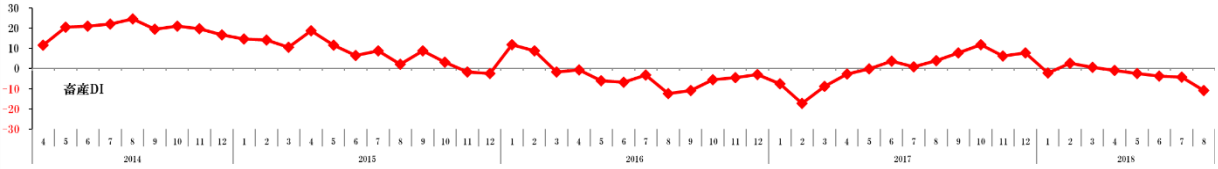
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	12.4	31.9	33.5	18.4	3.8	-7.7
水産（当月）	**17.8**	**34.9**	**34.9**	**9.5**	**3.0**	**-13.8**



引き続きアニサキスの影響は続いており、生魚の販売を見合わせる店舗もみられた。さんまは漁獲量が回復したため好調となった。うなぎは相場高騰により蒲焼を中心に不調となった。刺身類ではマグロ、かつおのたたきなどが好調であったが、お盆時期の天候や曜日巡りなどで動きが悪かった店舗もみられた。入荷が安定している鮭は好調、丸魚は入荷が少なく不調となった店舗が多かった。ＴＶで放映された海藻類は引き続き好調となった。

3.　畜産 DI：-10.8（不調）

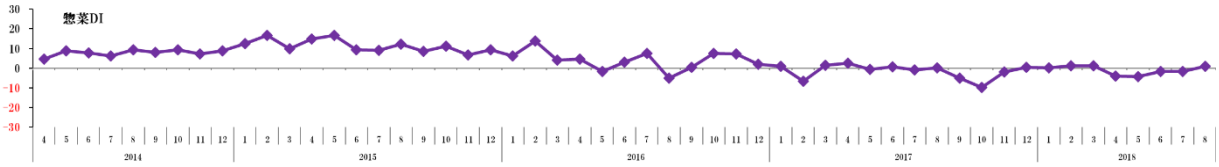
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.9	33.5	34.1	24.3	2.2	-4.2
畜産（当月）	**11.2**	**40.2**	**30.2**	**17.2**	**1.2**	**-10.8**



猛暑のためか、バーベキュー用商材が不調となった店舗が多い。牛肉は気温上昇により焼肉用やステーキ用は動きがよかったが、国産牛が好調である一方で、輸入牛が不調とするコメントが多かった。相場の高めに推移した豚肉は冷しゃぶ用などは引き続き動きがよいが、全体としては伸び悩んだ。鶏肉は相場が下落傾向にある単価下落により不調となった店舗が多い。引き続きハムやソーセージなどの加工肉は不調となっている。

4.　惣菜 DI：0.9（やや好調）

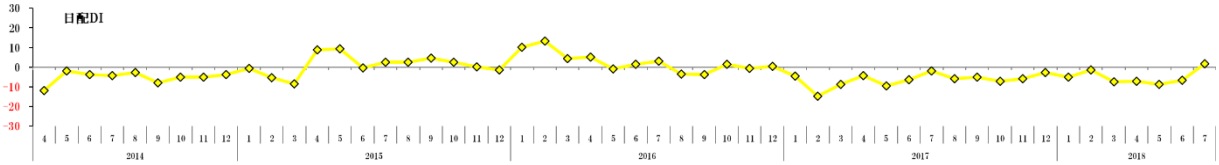
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.6	26.2	38.8	24.0	4.4	-1.6
惣菜（当月）	**7.8**	**21.1**	**36.7**	**28.3**	**6.0**	**0.9**



猛暑で家庭調理を避ける傾向がみられ、唐揚げやてんぷらなどの揚げ物を中心に動きがよかった。またつまみ用商材や涼味惣菜は総じて好調となった。野菜の高騰によりサラダ類の動きもよかった。一方でお盆時期のオードブルや寿司類は不調とする店舗が多かった。ウナギ弁当含む米飯類や煮物類は、前年以下の売上にとどまった店舗が多い。

5.　日配 DI：-1.2（やや不調）

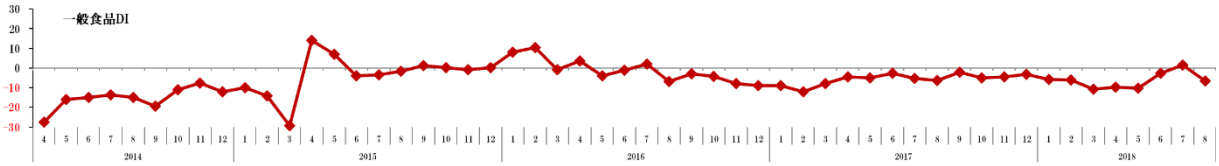
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.7	24.9	37.8	31.4	3.2	1.9
日配（当月）	**6.6**	**24.6**	**37.1**	**30.5**	**1.2**	**-1.2**



猛暑により、アイス、飲料など涼味系や豆腐、ところてんなどの夏物商材の動きがよかった。和日配では好調が続く納豆に加え、梅干し、漬物が特需となっている店舗が多い。一方でパン類やデザート類は動きが悪かった。ヨーグルトは好不調まちまちの判断となっているが、牛乳や卵は伸び悩んだとするコメントが多かった。

6.　一般食品：-6.7（やや不調）

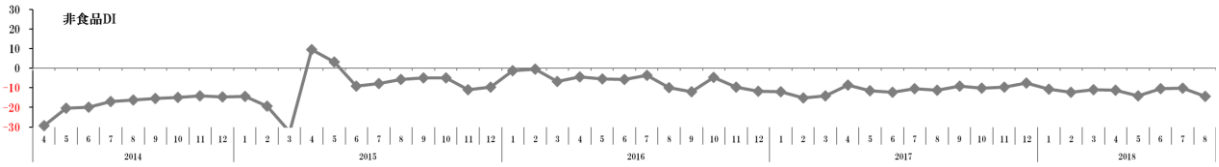
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.5	21.2	35.3	33.2	3.8	1.6
一般食品（当月）	**6.5**	**35.1**	**37.5**	**20.2**	**0.6**	**-6.7**



猛暑となった地域では、飲料やそうめんなどの乾麺類を中心に、涼味関連商材の動きがよかった。熱中症対策の食材も引き続き好調となった。豪雨被害による物流への影響によりスポーツドリンクなど一部商品は欠品によるチャンスロスがあった店舗も。米類は単価が上昇しており好調となっている。TV 放映によりサバ缶の好調が続いている。猛暑の影響もあり調味料、野菜価格高騰によりドレッシングなどは不調となった。酒類は好不調が分かれている。

7.　非食品 DI：-14.3（不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.7	32.2	43.9	9.4	2.8	-10.1
非食品（当月）	**17.8**	**31.3**	**41.7**	**8.6**	**0.6**	**-14.3**



熱中症対策商品を中心に制汗剤、日焼け止めなど夏物商材の動きがよくなったが、暑すぎて殺虫剤は不調とする店舗が多い。ホームセンターやドラッグストアなどとの競合の影響が大きくなっており、売場を縮小する店舗もみられるなど、全体的に伸び悩みをみせた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：　～ 20　　好調：　20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　：　0 ～ -10　　不調：-10 ～-20　　かなり不調：　-20～

2018 年 9 月調査（8 月実績）キーワード TOP3

1.　猛暑
2.　青果相場高騰
3.　来客数減少

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

8 月実績速報版　176 社
7 月実績確報版　194 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp